

2. 日本語プログラム報告 (2017年4月～2018年3月)

小木曾 左枝子
濱田 美和
田中 信之

国際交流センター(2018年4月に国際機構に改組)では、富山大学に在籍する外国人留学生のための日本語プログラムとして、日本語研修コース、日本語課外補講、総合日本語コース、日韓共同理工系学部留学生プログラム、これら4つを提供している。2017年度は、前期、後期ともに日本語課外補講と総合日本語コースを開講した。日本語研修コースと日韓共同理工系学部留学生プログラムについては、2017年度は学生の配置がなかったため、開講しなかった。

2017年度の日本語プログラム全体の受講者数は、前期が75人、後期が78人だった。各日本語プログラムでは専任教員がコーディネーターを務め、受講登録や成績に関わる業務を行った。また、日本語プログラムの科目の大半は複数プログラムの合同授業となっているため、初級、中級、上級クラス別の窓口(専任教員が担当)を設け、クラス運営を行った。各クラス、毎日の授業内容と学生の出欠状況を記録・閲覧できる「授業記録システム」を活用して受講者の学習の進捗状況を把握し、日々の授業に取り組んだ。学期末にはクラス別に授業アンケートを実施し、日本語プログラム講師ミーティングにおいてアンケート結果の共有化を図り、授業改善に役立てた。新たな取り組みとしては、オランダ・ライデン大学からの交換留学生向け短期日本語研修プログラムの実施に伴い、本プログラム参加者が受講する中級クラスを中心に日本語プログラム時間割の見直しを行ったことが挙げられる。

日本語プログラム以外には、留学生の日本語学習を支援するためのサイト「日本語学習支援サイト RAICHO」の運営を行っている。2017年度はサーバーの運用に問題が生じ休止状態となったが、再開に向けて新たな運用方法を探り、年度末に一部コンテンツを公開した。

以下、2017年度の活動状況について、日本語課外補講、ライデン大学短期日本語研修プログラム、総合日本語コース、日本語プログラム授業アンケート、日本語学習支援サイト RAICHO の順に報告する。